

令和7（2025）年度柏崎市水害対応総合防災訓練 実施結果

柏崎市危機管理部防災・原子力課

1 目的

近年全国的に多発する豪雨災害による洪水及び土砂災害への対応を想定し、地域住民、協力団体及び市職員が同一タイムライン上で連携しつつ実践的な防災活動訓練を実施して、水防意識の醸成を図り、地域防災力の向上を目指す。

ハザードマップ上で新たに浸水想定となった区域やそれに伴う指定避難所の変更への理解促進や災害から自分の身を守るための適時適切な住民避難体制を整備することを目的とする。

2 実施日時

令和7（2025）年8月24日（日曜日）

- ・住民訓練：午前8時5分から午前11時まで
- ・職員訓練：午前7時から正午まで

3 会場

- (1) 北条地区の各地・各所
- (2) 柏崎市役所本庁災害対策室
- (3) ソフィアセンター（柏崎市立図書館）

4 参加者

- (1) 北条地区住民 220名
- (2) 市職員 354名
- (3) 協力団体 35名

5 主催等

- (1) 主催
柏崎市防災会議
- (2) 協力団体（順不同）：
陸上自衛隊第2普通科連隊、新潟県柏崎地域振興局地域整備部・健康福祉部、新潟県動物愛護センター、新潟県警察柏崎警察署、柏崎ファミリードック、北条デイサービスセンター、株式会社プログレス、柏崎建設業協同組合

6 訓練想定

日本付近に停滞している前線の影響により、8月23日(土)の夜遅くから柏崎市内には断続的な降雨が続き、明け方には北条地区の長鳥川河川流域を中心に豪雨となった。8月24日(日)午前6時45分には、長鳥川が合流する鯖石川(天保橋水位局)では水防団待機水位5.1mとなった。加納水位局では、大幅な水位上昇が観測されないことから、合流河川である長鳥川の増水が懸念された。

午前7時30分には、洪水キキクル(危険度分布)に赤色(警戒レベル3相当)が出現、危機管理型水位計は長鳥川の小島で22.43m(堤防高24.17mまで残り1.74m)、同じく長鳥川の三蔵橋で15.83m(堤防高16.23mまで残り40cm)となった。市では水防パトロールを派遣し、現地確認を行ったところ氾濫の危険が認められた。このことから地域住民と柏崎市は連携し、高齢者・障がい者など要配慮者への避難支援等、災害応急活動の準備に当たる。

午前8時には、降り始めからの総雨量200mm、1時間最大雨量50mmに達した。人家及び施設への切迫した浸水及び土砂災害への懸念から、市は午前8時5分に北条地区に対して警戒レベル3高齢者等避難(土砂・洪水)を発令し、地域自主防災組織による要配慮者の安否確認及び避難支援を開始。また、同時刻に大角間地区において土砂崩れによる道路寸断の事象が発生したため、自衛隊及び道路維持委託事業者に住民避難支援を要請した。

午前9時15分にはレベル4避難指示(土砂、洪水)を発令し、北条地区全体の避難を開始。迅速かつ安全に住民を避難させるため、市及び関係機関は連携した被害把握、避難所開設・避難者の受け入れ、消防団活動などの災害応急活動にあたる。

午前9時30分、孤立地区(大角間地区)の状況を確認するため情報収集を行う。

午前10時には、土砂崩れによる孤立状態を支援するため自衛隊及び市道路維持委託事業者が活動を開始する。

7 訓練項目

【北条地区における訓練】

- (1) 住民避難訓練
- (2) 情報収集及び避難指示等の情報伝達訓練
- (3) 市職員避難所開設訓練(開設準備、ペット及び要配慮者受入)
- (4) 消防団及び柏崎警察署による水防活動訓練
- (5) 孤立集落支援訓練

【職員災害対応訓練等】

- (1) 災害対策本部運営等 市役所3階 災害対策本部会議室(庁議室)
- (2) 優先開設避難所等への物資供給訓練
- (3) 職員登庁訓練 ・ 1次配備、2次配備、3次配備職員それぞれの登庁訓練

8 訓練スケジュール

6時45分	天保橋水位計水防団待機水位超過（本部員招集）
7時40分	警戒本部会議
8時03分	洪水キキクル警戒レベル3相当情報
8時05分	警戒レベル3 高齢者等避難（洪水・土砂）
9時15分	警戒レベル4 避難指示（洪水・土砂）
11時00分	避難指示解除（洪水・土砂）＝地区訓練終了
12時00分	避難所運営訓練終了・解散

9 訓練概要

(1) 住民避難訓練（新たに指定された浸水想定に基づく避難訓練）

北条地区各町内会が洪水ハザードマップによる浸水想定を基に、訓練前にタイムラインに沿って避難行動を計画、避難先の確認を行い、指定避難所への立ち退き避難や自宅2階への垂直避難などを実施した。なお、一部の町内会では、河川水位の上昇に合わせた1次避難場所から2次避難も実施した。（住民参加者：220名）



洪水ハザードマップを活用し、
避難方法等を検討

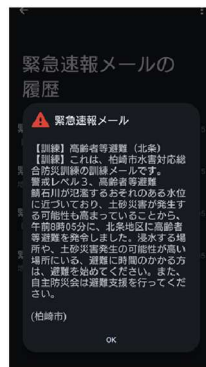


優先開設避難所への避難行動

(2) 情報収集及び避難指示等の情報伝達訓練

地区内の被害及び住民安否を各町内会が北条コミュニセンタ―へ報告、取りまとめた情報を市へ伝達した。

防災行政無線、緊急速報メール（エリアメール）、Yahoo!防災速報、各種 SNS（X、フェイスブック）で避難指示、訓練情報を伝達した。



(3) 市職員避難所開設訓練（開設準備、ペット及び要配慮者受入）

市職員が開設及び初動対応を担うこととしている北条コミュニティセンター、北条小学校、北条中学校への住民避難を想定し、開設訓練を実施した。

また、北条コミュニティセンターでは、以下の訓練も併せて実施した。

○ 避難者受付

新潟県が導入予定である災害時の避難者支援システム（模擬マイナンバーカード・防災アプリ）を活用した避難所受付訓練を実施した。

○ ペット同行避難

柏崎ファミリードック協力のもと、同行避難したペットの受付からペットスペースの設置までの一連動作を確認した。なお、本訓練では、公益社団法人新潟県獣医師会から寄贈されたペット避難に対応するキット一式（スターターキット）を活用した。

○ 福祉避難室の設置

段ボールベッド及びパーテーションを設置し、避難所の一角に福祉避難室設営。

自衛隊車両により移送された要配慮者役住民の受け入れを実施した。

避難所での受付から避難所内に設置した福祉避難室への移動の一連動作を確認した。

○ 自衛隊による要配慮者の移送

自衛隊協力のもと、自力避難ができない要配慮者の車両移送を実施した。



市職員による避難者受け入れ



マイナンバーカードや防災アプリによる
避難受付



ペット同行避難



自衛隊による要配慮者の車両移送



(4) 消防団及び柏崎警察署による水防活動訓練

アンダーパスが冠水した想定に基づき、地元消防団協力のもと可搬ポンプによる排水活動及び交通誘導の訓練を実施した。

また、柏崎警察署協力のもと、浸水箇所への立ち入り制限等、交通誘導支援を併せて実施した。(参加者：消防団10名・柏崎警察署4名)



地元消防団による排水活動

(5) 孤立集落支援訓練

土砂崩れによる孤立集落支援を想定し、各種訓練を実施した。

○ ドローンによる情報収集及び物資輸送訓練

孤立地域（大角間地区）の現地の状況確認及び物資輸送を実施した。

現地の状況確認では、測量用ドローンを使用し、撮影した映像を災害対策本部（市役所）にリアルタイムで中継を行った。

また、物資輸送訓練として、30kgを運搬可能な大型ドローンを使用し、飲料水を住民へ届けた。

○ 道路啓開訓練

県道433号大角間地区手前に障害物を設置し、市道路維持委託事業者のホイールローダーにより撤去し、啓開訓練を実施した。

○ 孤立地域住民移送訓練

道路啓開作業終了後、支援を要請していた陸上自衛隊第2普通科連隊による住民5名の人員輸送を実施した。自衛隊の高機動車に乗り込み、大角間地区から北条コミュニティセンターまで移動した。



大型ドローンによる物資輸送



輸送物資受け取り



道路啓開訓練



自衛隊による孤立地域住民の人員輸送

10 訓練成果、課題と対策

(1) 訓練成果（新たに確認できたもの）

- 北条地区ではこれまで、洪水ハザードマップに基づく避難計画はほとんど存在しなかった。今回の訓練をとおり、各町内会が訓練日前までに地域が自ら訓練想定に基づいて、住民の避難タイミング、連絡方法及び避難先を選定し計画を策定できた。さらに、訓練後は市から全町内会に対して取りまとめた好事例を共有した。
- 北条地区において、各町内会からの情報をコミュニティセンターで取りまとめ、市へ報告する一連の流れを実践した。
- ペット同行避難では受け入れに必要な道具を確認しながら、飼い主が当事者として受け入れを担う取り組みを実践した。
- これまで消火活動に主に用いられてきた、消防団積載車に積まれている可搬ポンプをアンダーパスの排水作業に用いて、活動できた。
- 数km先の孤立集落まで、物資運搬がドローンにより可能であることが確認できた。運搬する物資の選択によっては、飲食の確保、通信環境の確立及び電源の確保等を行うことができる。

(2) 今後の課題と対策

○ 住民避難訓練

【課題】防災行政無線について、天候・山間部等の要因で、放送が入らない。

【対策】電波状況が改善しない場合は、市負担でアンテナ工事を実施することを周知した。また情報入手を多重化するため、携帯電話で防災情報を受け取ることができる柏崎市公式LINEや登録メールを周知した。

○ 地区における情報収集及び避難指示等の情報伝達訓練

【課題】 地区内の被害状況及び安否確認情報などの収集・伝達について、各町内の情報伝達方法にばらつきがあったため、混乱があった。

【対策】 情報を集約するコミュニティセンターが、安否確認等の収集したい情報を整理し、グループ LINE 等 SNS の有効活用なども検討してもらうこととした。

○ ペット同行避難

【課題】 試行的にペット避難スターターキットを活用したが、市職員が開設する避難所へ配備が必要である。また、ペット飼い主への災害時におけるペットとの避難行動について理解促進を進めていく必要がある。

【対策】 関連団体との訓練実施により、多くの飼い主に理解促進の場を提供するとともに、優先開設避難所へのスターターキット配備に係る予算措置を検討する。

○ 災害対応におけるドローン活用

【課題】 孤立地域の状況確認及び物資輸送に対してドローンは、災害対応で有用なツールである。

運用に当たって、機器の確保（所有又は貸借）、操縦オペレーターの確保（市職員又は委託）など、整理が必要。

【対策】 他市の状況や活用事例を研究するとともに、当市での最適な活用方法について検討していく。